

11月15日 第6日目

朝食の後、政治大学のキャンパスに移動し、丸一日の特別講義へ突入。

午前中は日・台・中の関係史を専門としている石原忠浩先生による「日台関係の発展と現状」に関するレクチャー。冒頭では2年石川・1年澤村班によるインバウンド対策におけるSNSの活用をテーマとしたプレゼンテーション。相手を見ながら話す、問いかけをする、隣同士の思考を促すなど、こちらでは特に指導していない聴き手への配慮が随所に散りばめられた堂々たるプレゼンテーションであった。生徒の潜在能力の高さと、見えないところでの努力がよく伝わってくる。

続く講義の部では、歴史を軸として日台関係の基礎的展開を分かりやすく教えていただいた。個人的になぜ（日本から一方的に国交断行までしているのに）台湾の人々がこれほど親日なのかというのが長らく疑問だったが、戦後（日本の統治からの解放後）、国民党という外来の人々による支配を経験している台湾では、それに対する反発から日本統治時代が「昔はよかった」と懐古されたことで、韓国や中国に比べて反日感情が薄いという説明をいただき、長らく抱えてきた疑問が一気に氷解した思いだった。

午後は京都大学の博士号を持つ李先生による、「婚姻・職場における男女平等に関する日台比較」をテーマとした講義。冒頭では金村・松田の一年生コンビが、性差に配慮したワークライフバランスの実現に関するプレゼンテーションを行った。2年生は昨年度の課題研究で、既にフィールドワークからプレゼンテーションまで、一連の流れを経験しているが、その経験を持たない1年生が独力でプレゼンを1から準備するには、色々な苦労があったことと思う。それを乗り越えた経験を糧に、学校に戻った後も学年の課題研究を牽引していてもらいたいものである。

プレゼン後の講義では日本と台湾、それぞれの社会における女性の役割・生き方の違いについて、興味深い講演をいただいた。共働きの多い台湾では、日本における「男性は皿洗いを、女性は調理を」というような性差に基づく役割分担はさほどなく、とにかく効率を重視して家庭内での仕事が割り振りされるということであった。

本日はお二人の先生ともに日本語が堪能ということで、生徒たちは昨日以上に積極的な質疑やフィールドワークを見越した情報収集を行っていた。生徒たちにとって、日本では基本的にインターネットなどの中の世界であった台湾が、少しずつ実体としてその輪郭をとらえることができるようになってきている気がする。

講義終了後はドミトリー周辺で思い思いの時間を過ごすことに。今まで落ち着いて歩くことがなかった政治大学周辺の散策や、メンバー間の交流に多くの時間を充てることができた。

前日有志が訪れた龍山寺  
台北最古級の寺院



朝食のハンバーガーの包装紙  
かえって訝しんでしまいます



石川・澤村班のプレゼン  
デリバリーの巧みさが光っていました



1年生コンビによるフレッシュなプレゼン  
今日も一日お疲れ様でした！

